

～ 本寺の地域づくり・その1 ～

今は昔、一関市巖美町本寺地区は、骨寺村と呼ばれる中尊寺の荘園でした。700年前に描かれた絵図の農村景観を今に伝える「骨寺村荘園遺跡」は、農業の継続と景観保全の両立を図りながら、今日までこの地区の人たちによって守られてきました。

その活動母体となっている地元組織が、平成16年に設立された本寺地区地域づくり推進協議会です。

今回は、巖美8・9・10区の16世帯・約350人の構成員を束ね、新たな地域づくりを模索しながらも、強いリーダーシップをお持ちのおふたりの会長にお話を聞いて参りました。

協議会の発足から約6年にわたり会長を務められた佐藤武雄さんは、瑞山の矢びつダム周辺のご出身で8月で78歳になられる温和な笑顔が印象的な会長さんです。初めに2



初代会長 佐藤武雄さん

度にわたる大震災のお見舞いを述べると「鑑懸はカスリン・アイオン台風でも崩れたんだよ」と教えていただきました。

続いて協議会発足時の事をお聞きしました。「ちょうど本寺が世界遺産を目指す話が持ち上がり、地域活性化のために立ち上げた。地元に取り組みを理解してもらおうと動いたが、本当に登録なるのかという思いと、地域一丸とならなければ、という思いが正直あった」と当時の複雑な胸の内を明かしてくれました。

しかし6年間で協議会が内外に果たした役割は大きく、なかでも中尊寺と絆を深める恒例行事は、地域おこしの起爆剤となりました。

「もともと本寺は中尊寺と交流があり、戦前には山王周辺で護摩焚きを行っていた。光中さんや今の瑞泉閣の社長のお父さんの頃。瑞泉閣周辺には当時、いくつかの旅館や浮浪者を集めて働かせた木工所、なめこ工場などがあって」と貴重なお話を披露してくれました。



巖かに、肅々と行われる中尊寺への米納めの儀式。歴史の重みを感じます

ご在任中の思い出や苦勞話に話しが及ぶと、「地元の皆から協力してもらえたことが嬉しかった。大変だったのは県や市に陳情に行った時に最初に挨拶しなければならなかったことかな？」とちょっと苦笑い。誠実なお人柄を感じます。

最後に、理想とする地域づくりと荘園風景で好きな場所をお聞きしました。「景観を守り農業を続けるには若い人たちの参加が必要。共同作業をすれば良い。好きな場所は駒形根神社から眺める集落景観」と笑顔で語る武雄さん。地元への深い愛着がひしと感じられました。*****
次に、現協議会会長の佐藤勲さんにお話を伺いました（裏面へ続く）。

～ 本寺の地域づくり・その2 ～

先頃、協議会が一関市初の景観まちづくり賞に選ばれ、さらに県から景観保全活動の感謝状を授与されました。会長に、ここ至るまでの道のりについてお聞きしました。「昭和30年代にも圃場整備の話が何度かあったが実らなかった。さらに平成7年の基盤整備推進事業に対しても、同意率100%のハードルを越えられず認定に至らなかった。10年後の本寺の農業への危機感のなか、あの中尊寺の骨寺村絵図の存在が明らかとなった」と絵図の出現が本寺の地域おこしのあり方を大きく変えていくきっかけになったと会長は説明します。

平成15年に遺跡が平泉の文化遺産の推薦候補として挙げられ、17年に国の史跡指定、翌18年には全国で2番目の重要な文化的景観に選定されました。「基盤整備より歴史を生かした地域づくりに大きく方向転換することが決定的となった」と話す会長。

しかし景観や遺跡の価値を守るには営農の継続が必須で、地元は



中世から続く小区画水田の前で、本寺の未来を熱く語る会長

その後、骨寺村荘園農地整備推進協議会を設立。会長は景観を守りながら農業を継続できる保全型の農地整備事業の推進にご尽力されました。そしていよいよ20年に、全国初の景観保全農地整備事業がスタートします。

効率の良い基盤整備をあきらめ、小さな水田、曲がった畦畔や水路のまま農業を続けていくという苦渋の決断を迫られた本寺の人びと。世界遺産登録の気運が高まっていた頃、遺跡見学に来たお客さんから「なんだ、ただの田んぼの風景だ」と言われるのが一番悔しい、と会長がおっしゃっておられたのが今でも印象に残っています。「そんなこと言いましたか(笑)。

人それぞれ価値観が違うが、遺跡を理解し活動に参加すれば守ろうとする気運も生まれるはず。登録延期を振り返っても仕方ない。地

元は今の生活をボーイコット出来るわけじゃなく、大変だと思いなगरも前へ進まなければいけない」と世界遺産に頼らない体力ある地域づくりへの意気込みを語ります。協議会ではハード面だけではなく、イベントなどによる地域の情報発信や、都市と農村の交流も図っています。先日は被災者の方を古曲田家さんやお田植え体験交流会にご招待しました。「ソフト面の活動は過渡期にあり、認知度はまだ低い。来客など、外部から教えられ刺激を受けることも多い。地域のためにもどんどん来てもらいたい」と笑顔で話す会長。

7月にオープンする骨寺村荘園交流館への期待をお聞きすると、「たくさんの人に遺跡を理解してもらおう殿堂になって欲しい。そして経営感覚で遺跡を維持してゆく施設になって欲しい」と語ってくれました。

(平成23年6月インタビュー)



骨寺村荘園交流館「若神子亭」
いよいよ7月オープン!